

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2025年夏号 vol.33



見沼代用水西縁の土手1.5kmの花の道(日本一) 憂いを忘れる「忘れ草」=「ヤブカンゾウ」

「ワスレグサ」(忘れ草、学名: *Hemerocallis fulva*)は、ワスレグサ属の多年草の一種。別名で「カンゾウ」ともよばれる。有史以前に帰化した史前帰化植物とされている。

夏のこはん

マイクロリーフミックス ホットケーキ

夏のからだには緑の野菜が必要です。

ホットケーキの素に水を加え、マイクロリーフミックスとチーズを加えて弱火でホットケーキの要領で焼いて下さい。薄く焼けば早くでき、何も足さなくても後を引くおいしさです。



マイクロリーフミックスは「風の谷工房」のインスタグラム [kazenotani_koubou](#) でお取り寄せできます。

日本一のヤブカンゾウ群落(1.5km 約40万株)を保護・管理する

「NPO法人カンゾウを育てる会」のご紹介

見沼たんぼ「新都心東エリア」の浦和区大原地区から三崎地区にかけての見沼代用水西縁の約1.5kmの土手では、6月末ごろからこの地の自生種・ヤブカンゾウを移植して広がった「日本一の群落(約40万株)」の開花を鑑賞することができます。

この群落は、故・島崎市太郎氏の保護活動から始まりました。

約30年前、この地の古老、故・島崎市太郎氏が、



ガイド
ツアー

見沼たんぼの夏の花。日本一のヤブカンゾウ鑑賞ツアー

7月4日(金)・6日(日) 集合:さいたま新都心駅 9:30 改札を出た所

夏、見沼代用水西縁にヤブカンゾウの花が咲き誇る日本一長い花の道(約1.5km)があることをご存知ですか。「NPO法人カンゾウを育てる会」など地域の人たちが、20年以上をかけて保全育成してきました。

●コース:見沼代用水西縁に沿ってヤブカンゾウの花を鑑賞しながら花の道を歩きます。

さいたま新都心駅⇒バス停山中橋⇒見沼代用水西縁にそってヤブカンゾウを鑑賞しながら土手を西へ歩く→みぬま木崎広場(トイレ休憩)→ハーブ園→正樹院橋→バス停西高前⇒さいたま新都心駅・解散(11:30)

●歩行距離:2km ●所要時間:約2時間(少雨・開催)

●暑い時期なので、行きも帰りもバスを利用し、午前に解散します。

●参加費:一人300円 ●持ち物:帽子・タオル・飲み物・日傘・雨具

●申込:北原典夫 minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp

FAX.048-834-5731 TEL.090-2675-1684

見沼たんぼ地域ガイドクラブ HP:<http://www.minuma-guide-club.com/>



MINUMA EVENT INFORMATION

厄除けの「氷川女體神社 名越の大祓え」ツアーア

「輪くぐり」「大祓え」と呼ばれる行事で、江戸時代より続く名越の行事です。月遅れの7月31日、罪穢れを人形に移し、社頭を流れる見沼代用水西縁に流します。その後、境内の鳥居に取付けられたマコモという植物で作った輪を「8の字」にくぐります。罪穢れを人形に移して水に流し去らせることにより、悪疫を防ぎ、秋の農繁期の健康を祈願するものです。昔ながらに神官・氏子・参拝者が同時に一体となって行われる貴重な神事/お祭りです。ご一緒に参加しませんか。



▲罪穢れを人形に移し見沼代用水西縁に流す



▲名越の大祓えの祝詞

2025年7月31日(木)

集合:13:45 東浦和駅前広場(小雨決行)

●コース:東浦和駅⇒朝日坂上バス停→氷川女體神社(名越の大祓え参加)→見沼氷川公園→芝原小バス停→東浦和駅(16:45解散予定)

●歩行距離:約2km、歩行時間:約2時間

●参加費:一人300円(別途バス代・人形代)

※ツアーアは傷害保険等には加入していません。必要でしたら各自ご加入ください。FAX.048-687-5543

見沼のお店紹介!

Café de Vert (カフェドヴェール)

慌ただしい日常からふと離れて、心安らぐひとときを過ごせる身近な居場所として。そして、大切な人と共に気軽に食事を楽しめて、安らぐ場としての「カフェ」。店主の林さんご夫妻のそんな思いを形にしたのが、大和田駅から徒歩2~3分にある「Café de Vert (カフェドヴェール)」です。

「カフェ」とはいうものの、メニューは季節の野菜とフルーツをテーマにした「コース仕立ての献立」一択



▲Café de Vertオリジナル瞬間サラダ



▲ベーグル



▲店内



▲デザート

(¥2,980)。アミューズからはじまり、サラダ、スープ、肉魚のお料理、デザート、コーヒーまたは紅茶にプレティフルール。献立は旬の素材に合わせて、4~6週間で変わります。店内はカウンター9席のみで、食事のスタートは11:00と13:15の2回制です。(要予約)

目の前のカウンターで仕上げる『Café de Vertオリジナル瞬間サラダ』は、30種類以上の旬の野菜や果物、ナッツ、豆、雑穀、ハーブなどをたっぷり。野菜は見沼産を中心として地元の採れたての野菜を使用。コーヒーは自家焙煎の豆をその場で挽いて目の前で丁寧にドリップしてくれます。お店で育てた天然酵母を使ったベーグルや、自家製酵素ドリンク、埼玉のクラフトビール、埼玉のウイスキーなど、提供される一品一品に細やかな心遣いを感じます。

6月から7月にかけての献立テーマは「ジメジメを吹き飛ばすグレープフルーツとキュウリ、とハーブの香り」。雨の季節に、こころ晴れるようなひとときを感じてみませんか。

見沼区大和田町2-1320-6 大和田駅前ルーラルシティ1F

TEL.080-9884-8974

Instagram:@cafe_de_vert

予約:<https://airrsv.net/cafedevvert/calendar>



見沼田んぼ福祉農園と猪瀬浩平さん

「見沼田んぼ福祉農園」は障害のある人たちに農作業を通じて、作物を育てる喜びや収穫の喜びを味わってもらうとともに、障害者相互の交流、地域との交流を図ってもらうこと等を目的としており、県が進めている見沼田圃の公有地化事業による農地の活用の一環として埼玉県が整備したものです。

同農園では、それぞれ人の個性を活かしながら、農園ではたらき、農とくらしをつなぐ活動をしています。四季折々の風景のなかで畑で種まき、収穫、草取り、商店街のお店で販売、採れたて野菜を使って調理や加工事業、農園のなかで表現活動…等々その人の得意なこと、好きなこと、情熱を傾けられることをサポートし、自然とつながる豊かな暮らしを生み出しています。

同農園の活動を支える特定非営利法人「のらんど」の代表理事が猪瀬さんです。猪瀬さんは父上が設立した同農園での活動を続けつつ、明治学院大学教授として文化人類学分野で活躍されています。

農園での活動を通して「ボランティアってなんだっけ」(岩波書店)、「分解者たち:見沼田んぼのは



▲農園の景色



▲農園での猪瀬浩平さん ▲屋外のベンチ

とりに生きる」(生活書院)、また知的障害がある実兄の失跡/疾走を柱に据えた「野生のしつそう」(ミシマ社)他の執筆をされています。

のらんど: 緑区南部領辻 TEL.048-826-5770
メール:nolando.minuma@gmail.com

大和田直売所

東武アーバンパークラインの大和田駅から南側へ踏切を渡り、歩いて3分のところにあります。昭和59年から41年間、地元で採れたての安心・安全な季節の新鮮な野菜等を販売しています。開店の午後1時30分前から行列ができ旬のものは、人気があり売切れてしまいます(躊躇など)。

お客様は地元の長いお付き合いの方や駅が近いため新しい若い方も増えています。取扱い品目は、野菜、お米、果物、花、卵、漬物です。部会長の細沼謙一さん、小林正明さんを中心7軒の農家が当番制で協力をして直売場を運営しています。

見沼区大和田町1-1634 TEL.048-683-8597
営業時間:13:30 ~ 17:30 火・木・土曜日



▲大和田直売所



▲部会長 細沼謙一さん、小林正明さん ▲ジャガイモ

ブルーベリープラザ浦和

~県内最大4.5ha広さのブルーベリー園で摘み取り体験を

ブルーベリーの品種は6~7月上旬のハイブッシュ系か、7月下旬~8月のラビットアイ系があり、併せて25種類が揃っています。同プラザの特長は品種の多さの他に、ビックリするような大粒なブルーベリーも自慢なので探してみませんか。食べ放題プランではシーズンに合った品種のものを時間制限なしで楽しめます。園入り口では自家製ブルーベリージュースやかき氷も販売しています。

緑区大崎589 TEL.090-1990-2020
開園時間:6月上旬から7月上旬 9:00 ~ 12:00 / 7月上旬から8月下旬 9:00 ~ 14:00
食べ放題の入園料1,000円、持帰り料金220円／100g
緑区大崎910付近(浦和中央自動車教習所そば)バスで浦和駅東口①番乗り場から「念仏橋」下車5分
HP:<https://www.blueberry-plaza.com/>



▲園ののぼり



▲移動販売車

ゆ~ぱる ひざこ(健康福祉センター東楽園)

4月1日にオープンしたばかりの「ゆ~ぱる ひざこ」。サーマルエネルギーを焼却した時に発生する熱を活用。お風呂は勿論、サウナ(ドライ、スチーム)、フィットネスから温水プール、図書室、飲食店まで、その他の施設も充実しています。

膝子遺跡が存在する地名を遺したいとの住民の意向が反映されました。

見沼区膝子984 TEL.048-689-3017
利用時間:9:00 ~ 21:00 (最終入館20:00)
休館日:月曜日 ※月曜日が祝日の場合は、翌平日が休館日
60歳以上の市内在住:100円 / 市外:200円 / 一般:740円 / 市外:830円 / 小、中学生:310円 / タオル・石鹼等持参ください。



ランチメニュー▶



染谷特別保全緑地地区(フクロウの森)の保全・整備の状況報告

- ① 2021年9月染谷フクロウの森の中心部の伐採工事が予定されているようとの情報に基づき、複数の市民団体協働で調査活動・要望活動・伐採反対署名活動を開始しました。
- ② この森は、大宮市民聖苑の北側にある約3haほどの森で、林床には、絶滅危惧種の「シュンラン」が多数自生し、フクロウも生息歴のある深い森でした。
- ③ さいたま市は、この森の中央部に5,000m²程度の「芝生広場」を造成するという計画で、12月の補正予算として、3,410万円の樹木伐採予算を提出しました。何人かの議員は、伐採予算に異をとなえましたが、可決成立してしまいました。
- ④しかし、その後、さいたま市都市局は、市民団体の要望を受けて、伐採工事を凍結し、生物多様性基本法に基づく「環境調査」を9カ月間にわたって実施しました。
- ⑤ その環境調査結果を踏まえて、森の中心部分は、「特別緑地保全地区」として保全され、園路等を一部に配置する整備工事となっています。



見沼・旬彩

染谷花菖蒲園

さいたま市見沼区に位置し、昭和58年(1981年)に開園しました。この地域は元々低湿地であり、植木の生育が難しい土地でしたが、改良を重ねて花菖蒲の栽培に適した環境を整えました。

花菖蒲は江戸時代から日本各地で栽培されてきた伝統的な園芸植物であり、染谷花菖蒲園もその文化を継承し、地域の観光資源として発展してきました。約300種以上、20,000株の花菖蒲が栽培されています。花菖蒲の花色は白、桃、紫、青、黄など多様であり、絞りや覆輪などの組み合わせを含めると5,000種類以上が存在すると言われています。花弁の根元にははっきりした黄色の模様があり、これが花菖蒲の特徴の一つです。園内には池や八つ橋、あずま屋などの施設が整備されており、自然の景観を



楽しみながら花菖蒲を鑑賞できます。また、茶室「紫染庵」では、福島県会津藩の松平家が使用した茶室を復元し、伝統的な日本文化を体験できる場となっています。毎年6月の1ヶ月間のみ開園し、残りの11ヶ月間は翌年の開花に向けた手入れ期間となっています。

見沼区染谷2-248 TEL.048-683-8787
開園期間:5月下旬~6月下旬 開園時間:9:00 ~ 17:00
入場料:大人(中学生以上) 500円 / 小人(小学生のみ) 200円 / 75歳以上(平日200円・土日500円)

MINUMA
New Face/

新規就農者「KADO FARM」園主 嘉戸由佳さん



めました。夫婦での起業を考えたとき、真っ先に思い浮かんだのが「農業」でした。

さいたま市にある民間の農業学校(アグリイノベーション大学校)で1年間学び、その後は緑区の先進農家のものでさらに1年間研修。現在は「明日の農業担い手育成塾」の塾生として、さいたま市の支援を受けながら栽培技術を磨いています。「季節の野菜で、食卓に笑顔と健康を」をコンセプトに、「KADO FARM」として就農して2年目を迎える。農地は緑区内に3箇所(計6反)。ニンジンやジャガイモなどの常備野菜に加え、エダマメ、オクラ、アレッタ、カブといった季節野菜、さらにはタンザニアで親しんだキャッサバ(タピオカの原料)も栽培しています(10~11月収穫予定)。

今後は収穫体験なども取り入れながら、地域の皆さんにもっと野菜を身近に感じていただき、「手に取りたくなる野菜」を目指して、夫婦で楽しく農業に取り組んでいきたいと考えています。

畠所在地:緑区新宿・見沼 / **所属:**さいたま有機都市計画、日本野菜ソムリエ協会／販売先・直接販売:駅マルシェ(浦和美園駅・週2回)／委託販売:サミットストア太田窪店、イオンモール与野、オーガニッククラブザ コクーンシティ店など



▲キャッサバ(タピオカの原料)



▲ニンジン

見沼たんぼの最大の課題地区

さいたま新都心東エリア「芝川西岸エリア」の風致・環境の改善・向上のために

見沼たんぼへの「残土・ガレキ山」

①1970年代半ば、見沼たんぼの「芝川西岸エリア」、天沼・大原地区に「不法残土山」がいくつもつくられました。当時進められていた「新幹線の橋脚づくり」などで出た「残土やガレキ」で、埋立業者が地権者をだまして埋め立てを進めてしまった土地です。

②背景には1970年に見沼たんぼ全域が、都市開発を抑制する市街化調整区域に指定され、農地転用=開発を禁止された地主さん達の不満が広がるとともに、先祖代々、250年間やってきた米づくりも、1971年から米づくりを抑制する「減反政策」が開始され、水田農業の未来が見えない時代の中で、水田への残土での埋立が進行していました。

③その後、見沼たんぼの対策を所掌する県は、残土山のところにグラウンド確保に困っていた都内のの中高大学のグラウンドを誘致し、グラウンド用地としての利用を進めました。この都内のの中高大学のグラウンド用地としての誘致により、残土山のいくつかがグラウンドとなりました。

「セントラルパークⅠ期・Ⅱ期」としての整備

①さいたま市は、2003年度に「セントラルパーク基本計画」を策定、計画にそって、2007年にはⅠ期計画として「合併記念見沼公園3.9ha」が整備されました。

②さらにその南側に第Ⅱ期計画として『首都圏の防災拠点公園12.2ha』の導入計画が進められており、芝川小学校の南側から天沼地区内・下水処理場までのエリアが、「首都圏の防災拠点公園として2015年に国土交通大臣により指定されました。



合併記念公園 3.9ha

防災拠点公園 12.2ha

③現在、用地買収が進められており防災拠点公園の供用開始予定は、8年後の2033年ごろとされています。

「第Ⅲ期地区=展開候補地区49ha」に対する取組みの必要性

防災拠点公園整備地区の南側から浦和レッズの練習場までの約49haの第Ⅲ期整備・展開地区には、1970年代の後半に運び込まれた建設残土等が「荒地」として放置されています。

2031年度には、さいたま新都心地区に「さいたま市的新庁舎」の完成が予定されています。その新庁舎の直近1kmほどにある見沼たんぼの「不法盛土地」や「残土・産廃捨場」などをどのように整理し、環境・風致の改善・向上を進めていくかは、地域の喫緊の課題です。

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域の人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2025年夏号 vol.33

発行：未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ
発行日：2025年6月5日

We
Love
Minuma



この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。